

【第2期江田島市総合戦略】 具体的施策 現時点における成果と見直し

基本目標Ⅰ 地域で暮らすためのしごとをつくる。

プロジェクト1 しごとをつくる・しごとの場を確保する。

【重点取組項目】中小企業・小規模事業経営の専門家による相談(WS)

【対象者】 中小企業・小規模事業者

【内容】 中小企業・小規模事業者が抱える新事業展開、販路拡大、資金調達等の経営課題について、専門家を派遣し、課題解決のための支援を行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 新規相談件数	60件	60件	60件	60件	60件
【想定人口効果】	[直接分+1.00人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.00人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.00人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.00人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.00人] [経済分+0.19人]
実績及び実績見込み	49件	48件	63件		
《成果と見直し》					
<p>今年度はコロナ関連の支援金等の窓口相談に加え、インボイス関連の相談が急増したこともあり目標を達成した。商工会未加入の事業者だけでなく、商工会員の中にも商工会の役割や活用方法がわからず、効果的に活用できていない会員もいるため、引き続き商工会と連携し、課題解決や経営継続のための相談が行えるよう事業者へ周知していく。</p>					

【重点取組項目】オフィスなどの誘致(WS)

【対象者】 小規模オフィスなどの設置により地方進出を予定する企業など

【内容】 マッチングセミナー等への参加により地方進出に興味を持つ企業などに働きかけ、現地視察ツアーの開催や市内事業者との交流、小規模オフィスを設置する企業への補助金交付によって、誘致を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 事業者の来訪件数	15件	15件	15件	15件	15件
【想定人口効果】	[直接分+0.20人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.20人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.20人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.20人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.20人] [経済分+0.04人]
実績及び実績見込み	17件	26件	15件		
《成果と見直し》					
<p>県、金融機関、進出済企業等、複数のネットワークを活用する他、県のビジネスイベントに合わせて視察ツアーを実施することで事業者の来訪を促した。結果、新たなオフィス誘致に加え大学を交えた実証実験の実施等、関係人口の増加にも寄与した。企業との接点が外部からの紹介に偏っているため、首都圏コミュニティスペース等を活用し、企業との独自の接触機会の確保を図る。</p>					

【重点取組項目】創業者支援

【対象者】 創業者

【内容】 市内で新たな事業を行う創業者に対して、起業支援補助金を交付することで、創業者の事業支援を行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 創業件数	4件	4件	4件	4件	4件
【想定人口効果】	[直接分+1.04人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.04人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.04人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.04人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.04人] [経済分+0.20人]
実績及び実績見込み	7件	10件	9件		
《成果と見直し》					
<p>令和5年度は9件の起業支援補助金が申請されており、目標件数を達成する見込みである。コロナ禍から引き続き起業が増加傾向(特に市外からの転入を伴う起業)であり、飲食業や宿泊業を中心に店舗が増えている。この流れを逃さぬよう、引き続き起業支援補助金の活用を促進し、創業者の支援を行う。</p>					

【重点取組項目】新規漁業就業者研修制度の活用

【対象者】 新規漁業就業者

【内 容】 新規漁業就業者が販路を拡大できるよう、広島県などの関係機関と連携した研修会（勉強会）を実施し、知識や人とのつながりを増やす機会の確保を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 研修会（勉強会）の実施回数	—	1回	0回	1回	0回
【想定人口効果】		[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]	[直接分+0.000人] [経済分+0.000人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]	[直接分+0.000人] [経済分+0.000人]
実績及び実績見込み	—	1回	0回		
《成果と見直し》					
受け入れ予定であった研修生が、研修を辞退したため、今年度は研修会の実施を見送った。今後も広島県などの関係機関と連携し、研修の開催を検討していく。					

【重点取組項目】新規就農者研修制度の活用

【対象者】 江田島市内で新規就農を希望する者

【内 容】 新たに就農を希望する者に対して、実践研修や経営計画研修等を実施します。また、研修修了者に対して、就農に必要なハウスの整備費用を助成し、担い手の確保に努めます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 研修修了者数	1人	2人	2人	2人	2人
【想定人口効果】	[直接分+2.47人] [経済分+0.48人]	[直接分+4.94人] [経済分+0.95人]	[直接分+4.94人] [経済分+0.95人]	[直接分+4.94人] [経済分+0.95人]	[直接分+4.94人] [経済分+0.95人]
実績及び実績見込み	1人	1人	1人		
《成果と見直し》					
令和5年度は、継続している花卉の研修生が1名のみである。これまでは、国の就農準備型の制度を使用していたが、農業を取り巻く環境を踏まえて、研修制度の見直しを行い、令和6年の募集再開を目指す。					

【重点取組項目】学校給食における直接契約による地産地消の推進（WS）

【対象者】 農業・漁業者

【内 容】 地元の農業・漁業者が生産した新鮮な農産物と水産物を使って学校給食をつくり、おいしさや魅力を伝えらるとともに、農業・漁業者の生産意欲の向上を目指します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 取扱件数	—	1件	1件	1件	1件
【想定人口効果】		[直接分+0.018人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.018人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.018人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.018人] [経済分+0.003人]
実績及び実績見込み	6件	7件	5件		
《成果と見直し》					
今年度については、6月12日から16日を地場産物週間として事業を実施した。必ず江田島産の物を使用する食材に豆腐、醤油、みそ、きくらげなどを指定し、江田島産の使用を心がける食材にきゅうり、トマト、ズッキーニ、さつまいも、ちりめん、オリーブオイル、いちごなどを指定し使用に努めた。来年度についても、農業者の圃場に行った際などに、積極的に声掛けを行い、契約品目件数の増加に努め、魅力の発信や生産者の意欲向上につなげる。					

【重点取組項目】子どもたちが「漁師のしごと」を知る機会の提供（WS）

【対象者】 市内小学生

【内 容】 少年少女水産教室で水産産業の説明に併せて、漁師から「漁業の現状」を説明することにより、漁業に興味を持たせ漁業就業へのきっかけづくりを図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 教室の実施回数	1回	1回	1回	1回	1回
実績及び実績見込み	4回	6回	6回		
《成果と見直し》					
昨年度に引き続き、新規漁業就業者研修を終えた地元漁師へのインタビュー動画を撮影し、水産教室の講義にて放送し、漁業に興味を持つきっかけづくりとした。(※市内全小学校で実施)					

【重点取組項目】農地活用希望者のマッチング（WS）

【対象者】 農地利用希望者

【内 容】 農地中間管理機構を通じた土地の貸し借りを推奨し、貸出しを希望する農地所有者と利用希望者のマッチングを行い、就農促進及び耕作放棄地の解消促進を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 貸付面積	0.5ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha
[想定人口効果]	[直接分+1.02人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.02人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.02人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.02人] [経済分+0.20人]	[直接分+1.02人] [経済分+0.20人]
実績及び実績見込み	0.4ha	0.0ha	0.2ha		
《成果と見直し》					
農地中間管理機構のHPによるPRに加え、利用希望者に対して制度の周知及び意向の確認を行った上で、貸出しを希望する農地所有者と利用希望者のマッチングを行った結果、農地中間管理機構を通じた農地の貸し借りが2件成立した。引き続き、新規就農者等への優良な農地の斡旋を行っていく。					

プロジェクト2 しごとで稼ぐ。

【重点取組項目】果樹の産地形成と維持存続

【対象者】 果樹農家、小規模兼業農家、定年帰農者、新規担い手

【内 容】 地理的特性を鑑み、小規模兼業農家や定年帰農者への果樹栽培を積極的に推進します。重点拡大品目である、いしじ温州、レモン、いちじくや産地化を目指すオリーブ等の複合産地化や6次産業化により、1経営体当たりの所得向上を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 苗木の助成本数(各品目合計)・講習会の開催(各品目合計)	1,600本 12回以上	1,600本 12回以上	1,600本 12回以上	1,600本 12回以上	1,600本 12回以上
[想定人口効果]	[直接分+1.58人] [経済分+0.30人]	[直接分+1.58人] [経済分+0.30人]	[直接分+1.58人] [経済分+0.30人]	[直接分+1.58人] [経済分+0.30人]	[直接分+1.58人] [経済分+0.30人]
実績及び実績見込み	1,031本 18回	1,311本 19回	1,234件 84回		
《成果と見直し》					
苗木助成本数については、1,234本(いしじ303本、早生みかん47本、レモン234本、ネーブル37本、オリーブ613本)となり、目標値を下回った。理由としては、レモン苗木の国内需要の高まりにより、本数の確保ができなかったことが考えられる。レモンの育苗本数を増やす予定となっている。引き続き、各協議会に苗木購入助成を行うための補助金を支出するなどして連携を行う。講習会については、柑橘講習会を7会場、毎月1回実施できた。					

【重点取組項目】6次産業化、高付加価値化の取組への支援

【対象者】 市内の農林水産業の生産者

【内 容】

本市の加工施設や補助金等を活用して6次産業化、高付加価値化の取組を促進し、地域製品のブランド化を図ることにより、生産単価を向上させ、第1次産業の経営の安定及び向上を目指します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 えたじまブランド認定 品の増加数	1件	1件	1件	1件	1件
【想定人口効果】	[直接分+5.49人] [経済分+1.06人]	[直接分+5.49人] [経済分+1.06人]	[直接分+5.49人] [経済分+1.06人]	[直接分+5.49人] [経済分+1.06人]	[直接分+5.49人] [経済分+1.06人]
実績及び実績見込み	2件	1件	0件		
《成果と見直し》					
えたじまブランドの認定審査会自体が開催されなかったことや、認定されそうな商品はあったが申請までは至らず、実績として0件となった。 本市の補助金を活用して開発した新商品が、えたじまブランド認定審査会で認定されるよう、今後も補助制度等の活用を促進し、6次産業化、高付加価値化の取組を支援する。					

【重点取組項目】漁場基盤の整備

【対象者】 漁業者

【内 容】

漁礁や築いそなどの漁場を整備し、そこへ市場単価の高い魚種を放流することにより、つくり育てる漁業を推進し、漁獲量を増加させることで漁業経営の安定を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 整備箇所・放流魚種	0箇所 2種類	1箇所 2種類	0箇所 2種類	1箇所 2種類	0箇所 2種類
【想定人口効果】	[直接分+0.00人] [経済分+0.00人]	[直接分+0.25人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.00人] [経済分+0.00人]	[直接分+0.25人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.00人] [経済分+0.00人]
実績及び実績見込み	0箇所 2種類	1箇所 2種類	0箇所 2種類		
《成果と見直し》					
令和5年度は、漁場整備については設計を実施し、キジハタ4箇所(能美町、沖美町、大柿町)、オニオコゼ9箇所(江田島町、能美町、沖美町、大柿町)で種苗放流を行い漁獲量の向上に繋がっている。引き続き、つくり育てる漁業を推進し、漁業経営の安定を図っていく。					

【重点取組項目】えたじま牡蠣のプロモーション強化(WS)

【対象者】 消費者

【内 容】

他の産地との差別化を図るため、江田島産かきの品質や栄養成分、生食と加熱調理用の違いについて、各種媒体を活用して消費者にPRする。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 実施回数	—	3回	3回	3回	3回
【想定人口効果】		[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]
実績及び実績見込み	3回	2回	2回		
《成果と見直し》					
マツダスタジアムにおいて、牡蠣料理の提供を通じ、市外消費者へのPRを行った。また、大柿高校と共同で作成したPR動画をSNS等で配信しPRした。吉島住宅展示場のイベントには参加したが、江田島市かき祭りがコロナの影響により中止となったため、目標は達成することはできなかった。来年度以降も積極的なイベントへの参加、SNS等での動画配信を行うなど、引き続きプロモーションを行っていく。					

【重点取組項目】ふるさと納税制度を活用した地場製品の販売促進(WS)

【対象者】 市内外の消費者

【内容】 ふるさと納税の返礼品制度を活用して本市の地域製品の周知を行い、市内特産品の販売促進を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 ふるさと納税の返礼品の増加数	1件	1件	1件	1件	1件
【想定人口効果】	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]
実績及び実績見込み	1件	3件	1件		
《成果と見直し》					
市内事業者が市補助金を活用して事業拡大(グランピング事業)を行い、ふるさと納税の返礼品へ登録された。前年同様に「体験型」の返礼品が増えつつあるので、今後もふるさと納税の委託業者と連携し、江田島市への来訪につながるような返礼品の増加を促進していく。					

【重点取組項目】市内事業者と都市圏人材の交流促進(WS)

【対象者】 市内事業者

【内容】 都市圏人材からアプローチがあった場合、市内事業者との交流機会を設け、情報交換や販路拡大など、ビジネスマッチングのきっかけづくりを行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 事業者の来訪件数	5件	10件	10件	10件	10件
【想定人口効果】	[直接分+0.03人] [経済分+0.005人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]
実績及び実績見込み	3件	3件	2件		
《成果と見直し》					
都市圏で行われる商談会や展示会への市内事業者の参加を促し、実際の販路拡大につながるビジネスマッチングが生まれ始めている。ただし、意欲はあっても人手が足りないなどの理由から市外・県外への「販路拡大が可能」又は「意欲がある」事業者数は、決して多いとはいえないため、商工会と連携し各事業者の課題に寄り添った支援の実施が必要だと考える。また、実際に来訪してもらうためには外部への情報発信も重要になってくるので、今後は市内事業者の情報を市外・県外にもPRしていけるよう取り組んでいく。					

プロジェクト3 お客を呼び込む。

【重点取組項目】新たな宿泊観光関連施設の整備

【対象者】 市内及び市外宿泊客

【内容】 新ホテル等整備に係る補助及び駐車場を含む長瀬海岸周辺整備により、民間の宿泊施設の進出を支援し、宿泊客の増大及び観光消費額の向上を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 ホテル宿泊者数	7,240人	17,230人	19,000人	19,000人	19,000人
【想定人口効果】	[直接分+8.83人] [経済分+1.70人]	[直接分+21.02人] [経済分+4.04人]	[直接分+23.18人] [経済分+4.45人]	[直接分+23.18人] [経済分+4.45人]	[直接分+23.18人] [経済分+4.45人]
実績及び実績見込み	10,350人	18,483人	22,950件		
《成果と見直し》					
令和4年度に引き続き、長瀬海岸周辺の整備及び美化清掃、メディアやパンフレット・冊子等で宿泊施設のPRに積極的に取り組んだ結果、目標を達成することができた。今後は、周辺施設の利活用等も検討しながら、更なる宿泊客数及び観光消費額の増加に努めていく。					

【重点取組項目】観光戦略チーム「一歩」による体験型観光メニューの造成(WS)

【対象者】 市民及び関係団体

【内容】 観光戦略チーム「一歩」の事業により、市民及び関係団体が企画した体験型観光メニューを新規に造成することで、観光客の誘引及び観光消費額の向上を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 新規体験型観光メニュー数	3件	3件	3件	3件	3件
【想定人口効果】	[直接分+1.78人] [経済分+0.34人]	[直接分+1.78人] [経済分+0.34人]	[直接分+1.78人] [経済分+0.34人]	[直接分+1.78人] [経済分+0.34人]	[直接分+1.78人] [経済分+0.34人]
実績及び実績見込み	3件	8件	9件		
《成果と見直し》					
「えたじまものがたり博覧会」により、ぼん酢づくり体験やクリスマスリースづくり体験など9件の新規体験メニューを造成でき、観光客の誘引及び観光消費額の向上につながった。次年度以降も新たな体験観光メニューを造成すると共に、常時販売できるよう事業者と一緒に進める。					

【重点取組項目】縁のある民泊生徒へのアプローチ(WS)

【対象者】 体験型修学旅行で本市に來訪した生徒

【内容】 民泊受入家庭にICTを活用したオンラインによる事後交流の研修を実施し、オンラインが整備されている拠点で交流が続けられるような仕組みをつくります。これにより、民泊受入家庭と体験型修学旅行で訪れた生徒との交流を長く続けることができ、当該生徒の來訪の可能性を高めます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 再来訪人数	—	3人	3人	3人	3人
【想定人口効果】		[直接分+0.014人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.014人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.014人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.014人] [経済分+0.003人]
実績及び実績見込み	—	4人	5人		
《成果と見直し》					
今年度來訪した生徒が、民泊家庭に再来訪するなど、交流が推進された。また、生徒が主催するオンライン報告会(交流会)に、民泊受入家庭が参加するなど、受入校との事後交流も行われた。今後とも、インターネット接続環境や通信機器を有していない家庭が、生徒と交流できる場づくりを支援していく。					

【重点取組項目】市外イベントでの江田島市のPR(WS)

【対象者】 観光客

【内容】 県内で行われるイベントへ積極的に参加し、江田島市の魅力として体験型観光メニューや食をPRすることで、県内での認知度向上を図り、本市への誘客へつなげます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 市外イベントへの参加回数	6回	7回	8回	9回	10回
【想定人口効果】	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.35人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.40人] [経済分+0.08人]	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]	[直接分+0.49人] [経済分+0.10人]
実績及び実績見込み	5回	7回	6回		
《成果と見直し》					
事業者において市外の出店対応をする人手が足りない、インボイス登録を行っておらず出店条件を満たさない等の状況があり、目標件数を下回った。一方で10月～1月にかけてアウトレットモールで委託販売を実施するなど新たなPRの場を設けた。引き続き可能な県内イベントに積極的に参加し、本市への誘客へつなげたい。					

【重点取組項目】魅力ある観光情報発信の再構築

【対象者】 観光客

【内容】 「えたじまものがたり博覧会」を中心とした魅力ある観光情報の発信を行い、市の認知度向上を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 「えたじまものがたり博覧会」の情報発信件数	30件	32件	35件	37件	40件
【想定人口効果】	[直接分+1.85人] [経済分+0.36人]	[直接分+1.98人] [経済分+0.38人]	[直接分+2.16人] [経済分+0.42人]	[直接分+2.29人] [経済分+0.44人]	[直接分+2.47人] [経済分+0.48人]
実績及び実績見込み	25件	22件	26件		
《成果と見直し》 コスト削減のために、外部委託を縮小し本市インスタグラム等を積極的に活用してPRを行ったため、件数としては少なくなった。次年度以降もコストとのバランスを考慮しながら、テレビ局とへの取材交渉や職員によるインスタグラム発信など、効果的なPRを実施していく。					

【重点取組項目】簡易宿所営業許可等の認可取得サポート

【対象者】 民泊受入家庭

【内容】 民泊受入家庭を対象に、簡易宿所営業許可や住宅宿泊事業法（いわゆる民泊新法）の許認可取得に向けての事務的なサポートを行います。許認可を得るために衛生面等を整備することにより、民泊受入家庭の質が向上するだけでなく、体験型修学旅行以外においても、一般の観光客の受入が可能となります。その結果、市内の宿泊施設数が増加し、観光客の受け皿が拡充されることにより、観光客の増加を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 許認可取得者数	—	2人	2人	3人	3人
【想定人口効果】		[直接分+0.79人] [経済分+0.15人]	[直接分+0.79人] [経済分+0.15人]	[直接分+1.19人] [経済分+0.23人]	[直接分+1.19人] [経済分+0.23人]
実績及び実績見込み	—	2人	2人		
《成果と見直し》 事業化意向のある家庭について、制度説明等を行い、旅館業法簡易宿舎の営業許可2件について支援した。引き続き、民泊受入家庭の登録数を回復に取り組むとともに、事業化に向けた補助制度等の広報を行いながら、宿泊施設件数の増加に努める。					

プロジェクト4 しごとと人をマッチングする。

【重点取組項目】若年層への市内企業の紹介や就職情報の提供(WS)

【対象者】 10代、20代の求職者

【内容】 社会福祉協議会へ委託する無料職業紹介所の若年層（10代・20代）の求職登録者数を増やし、求職者へ情報提供を行うことで、仕事と求職者のマッチングにつなげます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 若年層の求職登録者数	30件	32件	35件	37件	40件
【想定人口効果】	[直接分+4.50人] [経済分+0.87人]	[直接分+4.80人] [経済分+0.92人]	[直接分+5.25人] [経済分+1.01人]	[直接分+5.55人] [経済分+1.07人]	[直接分+6.00人] [経済分+1.15人]
実績及び実績見込み	19件	19件	11件		
《成果と見直し》 人口減少や少子高齢化により、全体の求職登録者数が減少している一方で、市内の求人数は増加傾向であり、同じ事業者が繰り返し求人を出しているような状態である。若年層の求職登録者数を増加させていくためには、市内事業所を知る機会の確保と共に、新たなしごとの選択肢を増やしていくことも必要と考えている。今後は市内のしごとを知るきっかけづくりや新たなしごとの創出に注力していく。					

基本目標Ⅱ 人の流れをつくり、縁を有する人を増やす。

プロジェクト1 知ってもらう、興味を持ってもらう。

【重点取組項目】島暮らしのイメージづくりとプロモーション(WS)

【対象者】 市外在住の移住に興味がある層

【内容】 島暮らしがイメージできるブランドイメージやキャッチコピー、暮らしの様子などをホームページやSNS、ポスターなどの媒体を活用して発信します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 HP閲覧数、ポスター閲覧数	HP1,000件 ポスター150件	HP1,000件 ポスター150件	HP1,000件 ポスター150件	HP1,000件 ポスター150件	HP1,000件 ポスター150件
【想定人口効果】	[直接分+0.18人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.18人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.18人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.18人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.18人] [経済分+0.04人]
実績及び実績見込み	46,404件 0件	54,500件 563件	45,000件 437件		

《成果と見直し》

定住フェアには計3回出展し、ポータルサイト「hodohodo」の周知や移住相談対応を実施した。HP閲覧数(サイト訪問者数)は、昨年ベースと比較すると少し落ち着いた印象を受けたため、引き続き空き家バンク物件の掲載の他、お知らせコーナーや移住者インタビュー等、本市での暮らしの魅力が伝わりやすいような情報発信を積極的に行う。

【重点取組項目】移住希望者目線の島暮らし情報の発信(WS)

【対象者】 市外在住の移住に興味がある層

【内容】 教育、医療、買い物、住家、求人等の島での暮らしを検討する際に必要となるであろう情報を一元的に把握できるポータルサイトやパンフレットを作成し、提供します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 HP閲覧数、パンフ配布数	HP1,000件 パンフ150冊	HP1,000件 パンフ150冊	HP1,000件 パンフ150冊	HP1,000件 パンフ150冊	HP1,000件 パンフ150冊
【想定人口効果】	[直接分+0.024人] [経済分+0.005人]	[直接分+0.024人] [経済分+0.005人]	[直接分+0.024人] [経済分+0.005人]	[直接分+0.024人] [経済分+0.005人]	[直接分+0.024人] [経済分+0.005人]
実績及び実績見込み	46,404件 3冊	54,500件 300冊	45,000件 300冊		

《成果と見直し》

HP閲覧数は、昨年よりは数値が落ちたものの、年間を通して月平均3,600件を超える閲覧数があった。パンフレット(江田島移住のはじめ方)の配布については、定住フェアの来場者へ配布を行った他、窓口での移住相談者へ配布した。令和6年度も移住者インタビュー等のHP記事の更新を行い、引き続き本市での暮らしの魅力を発信していく。

【重点取組項目】定住フェアでのPR

〔対象者〕 首都圏等の大都市圏に在住する移住に興味がある層

〔内 容〕 教育、医療、買い物、住家等の島暮らしに必要な情報を定住フェアに参加し、直接、説明します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 定住フェアの相談対応数	2回×12人	2回×12人	2回×12人	2回×12人	2回×12人
〔想定人口効果〕	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.10人] [経済分+0.02人]
実績及び実績見込み	2回 1人	4回 17人	3回 11人		
《成果と見直し》					
令和5年度は前昨年より1回少ない参加となったが、広島県出身の方や、ルーツが本市にある方が多く、本市の認知度は昨年よりも高まっている印象を受けた。、相談内容も具体的性の高さにはばらつきがあるため、まずは来訪に繋がるよう、真摯な相談対応に努める。					

プロジェクト2 来てもらう、滞在してもらう。

【重点取組項目】移住相談への対応

〔対象者〕 本市に来訪した移住希望者

〔内 容〕 市内居住を検討してもらえるよう、島の暮らしの環境や空き家バンク登録物件等を案内し、説明します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 相談対応数	200件	200件	200件	200件	200件
〔想定人口効果〕	[直接分+3.00人] [経済分+0.58人]	[直接分+3.00人] [経済分+0.58人]	[直接分+3.00人] [経済分+0.58人]	[直接分+3.00人] [経済分+0.58人]	[直接分+3.00人] [経済分+0.58人]
実績及び実績見込み	139件	192件	120件		
《成果と見直し》					
昨年度は、空き家活用ディレクターによる物件の掘り起こしが軌道に乗り、急激に増加したが、今年度は、新型コロナウイルスの収束により、地方回帰の動きが落ち着いたことが要因で、相談件数が伸びなかったと考えられる。来年度は、昨年度に引き続きVR内覧により、移住に向けた次のステップの相談といった質の高い相談ができていく。今後も引き続き、空き家物件の掲載や、移住視察交通費補助の周知など、市内のイベント等の情報を積極的に発信することにより、相談対応数の増加を目指す。					

【重点取組項目】移住視察に係る交通費補助制度の運営

【対象者】本市に来訪した移住希望者

【内容】移住を目的に来訪し、滞在及び視察活動をした人に対して交通費の補助を行います。(県事業・単市事業)

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 移住視察に係る交通費補助制度の利用件数(県・市)	15件	15件	15件	15件	15件
【想定人口効果】	[直接分+1.83人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.83人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.83人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.83人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.83人] [経済分+0.35人]
実績及び実績見込み	3件	11件	6件		
《成果と見直し》					
<p>片道交通費支援(県)及び定住促進交通費補助(市)の両補助制度を活用して、次のステップでもある来訪に着実に結びつけている一方、件数は昨年度と比較し減少した。新型コロナウイルスの収束により、地方回帰志向が落ち着いたこと、昨年度、片道交通費補助対象額を5000円以上から10000円に引き上げたことが、制度利用が伸び悩んだ要因と見られる。</p> <p>移住希望者との縁を繋ぐため、さらに来訪時に市の魅力を肌で体感してもらえるよう、チラシデザインの見直しなどを行いながら、制度を周知していく。</p>					

【重点取組項目】リモートワーカー等の多様な人材の誘引(WS)

【対象者】首都圏その他の市外に居住するリモートワーカーやクリエイター等

【内容】江田島市を拠点として検討してもらえるよう、定住・企業誘致施策で連携し、フウド等でのリモートワークや創作活動などの体験を、ツアー開催や個別の受入れにより提供します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 体験受入社(者)数	16社(者)	16社(者)	16社(者)	16社(者)	16社(者)
【想定人口効果】	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]
実績及び実績見込み	11社(者)	23社(者)	17社(者)		
《成果と見直し》					
<p>令和5年度も設定しているKPIを達成できた。昨年度、富士通Japan株式会社とワーケーションパートナーシップ協定を締結したことから、ワーケーションに適した土地柄としての知名度も高まっている。今後も外部に向けて、幅広くワーケーションの推進及び受け入れを行っていく。</p>					

プロジェクト3 江田島市を好きになってもらう。

【重点取組項目】フウドによる移住希望者等との縁づくり(WS)

【対象者】江田島市に移住検討のため来訪した移住希望者

【内容】移住者を含む市民との接点を持つ機会を提供し、縁を深めます。また、フウドで移住相談を受け付け、市内や空き家への案内を行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 フウドでの移住相談対応件数	80件	80件	80件	80件	80件
実績及び実績見込み	139件	173件	106件		
《成果と見直し》					
<p>例年同様に、目標値の達成と移住希望者との接点を持つことができたが、件数自体は減少しており、新型コロナウイルスの収束により、地方回帰の動きが落ち着いたことが要因で、相談件数が伸びなかったと考えられる。今後は、リアル訪問での縁を深めることと、オンラインでの移住相談と併せ、継続して対応していく。</p>					

【重点取組項目】首都圏居住者との関係性の構築・維持

【対象者】 首都圏に居住する江田島市と縁を有する人

【内容】 東京江田島ファン倶楽部やひろしま里山ウェブ拡大プロジェクトなど、首都圏在住者の活動を通じて、江田島市の情報提供や交流の場を確保します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 東京江田島ファン倶楽部稼働会員数	250人	255人	260人	265人	270人
【想定人口効果】	[直接分+0.12人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.13人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.13人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.13人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.13人] [経済分+0.03人]
実績及び実績見込み	279人	335人	350件		
《成果と見直し》					
<p>会報誌「ETTO」の作成や江田島ファンネットの運営、里山ウェブ拡大プロジェクトなどの取組により、令和5年度は、会員数が350人を超える見込みとなる。コロナが収束した今年度は、4年ぶりに本倶楽部の総会が開催でき、会員と情報交換を行うことができた。今後も現会員との縁を紡ぎつつ、引き続き積極的な会員勧誘に努める。</p>					

【重点取組項目】市外居住者へのアプローチ

【対象者】 江田島市に縁のある人(主に近隣自治体を想定)

【内容】 縁のある人が自らエントリーする組織「江田島市応援隊・Forza!(フォルツァ)エタジマ」を結成し、加入登録者に対する情報提供や来訪の誘引等を行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 登録者数	20人	30人	40人	50人	60人
【想定人口効果】	[直接分+0.010人] [経済分+0.002人]	[直接分+0.015人] [経済分+0.003人]	[直接分+0.020人] [経済分+0.004人]	[直接分+0.025人] [経済分+0.005人]	[直接分+0.030人] [経済分+0.006人]
実績及び実績見込み	79人	83人	86件		
《成果と見直し》					
<p>令和5年度は、江田島市への来訪のきっかけづくりとして、主に市内イベントの告知を実施したが、登録者数の増加には伸び悩んでいる。LINEのお友だち登録数は増えているが、本登録に結び付けるインセンティブが不十分であることから、新たなファン獲得のために、各種イベントを活用した魅力発信や交流機会を設けることで、本市への来訪者数の増加に努める。</p>					

【重点取組項目】体験型修学旅行の推進

【対象者】 都市圏在住の修学旅行生等

【内容】 体験型修学旅行を一般家庭で受け入れ、交流を深めることにより、地域の活性化及び将来の定住人口の増加を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 受入人数	3,300人	3,500人	3,700人	3,900人	4,000人
【想定人口効果】	[直接分+15.22人] [経済分+2.92人]	[直接分+16.14人] [経済分+3.10人]	[直接分+17.06人] [経済分+3.28人]	[直接分+17.98人] [経済分+3.46人]	[直接分+18.44人] [経済分+3.54人]
実績及び実績見込み	219人	324人	1,075人		
《成果と見直し》					
<p>今年度から宿泊を伴う民泊の受入を再開したことにより、受入人数は増加したものの、①受入可能家庭数の減少、②学校からの予約数の減少により、コロナ禍以前の受入人数には及ばない状態である。まずは、新規家庭の開拓等により受入家庭数の回復に取り組む。また、SDGs体験(オーリーブ・海ゴミ回収)等の新たな取り組みをはじめ質の向上を図ることで魅力を高め、他地域との差別化を図ることで選ばれる民泊体験とし、広島湾ベイエリアと協力したプロモーション活動により、学校からの予約数の回復を図る。</p>					

【重点取組項目】ふるさとを知る機会の確保

【対象者】 市内在住者

【内 容】 本市の自然や文化、歴史について、学びの館、灘尾記念文庫等で企画展を開催するとともに、PR素材を整備することにより、青少年交流の家や旧海軍兵学校などが存在するふるさとを知り、愛着を高める機会を創出します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 企画展を含む来場者数	850人	900人	900人	900人	900人
【想定人口効果】	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.05人] [経済分+0.01人]
実績及び実績見込み	229人	884人	1,753件		
《成果と見直し》					
令和5年度は、灘尾弘吉没後30年及び早瀬大橋開通50周年記念特別展を開催し、開催期間も長く大幅に目標値を達成することができた。来年度以降は、通常の企画展や講座を開催し、来場者数を増やしていきたい。					

プロジェクト4 暮らしてもらう。

【重点取組項目】空き家バンクの運営・拡充(WS)

【対象者】 空き家の購入・賃貸希望者

【内 容】 土地のみ物件や空き家活用事例の掲載などの拡充を図りつつ、「空き家バンク」サイトで空き家情報を提供し、需要と供給のマッチングを図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 空き家成約件数、空き家バンク利用登録者数(累計)	15件 (一)	15件 (200人)	15件 (230人)	15件 (260人)	15件 (290人)
【想定人口効果】	[直接分+1.80人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.80人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.80人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.80人] [経済分+0.35人]	[直接分+1.80人] [経済分+0.35人]
実績及び実績見込み	39件 (170人)	39件 (353人)	35件 (432人)		
《成果と見直し》					
令和6年度からの法律改正(相続登記の義務化)のためか、空き家バンク制度に関する問い合わせや空き家バンク登録の申請数が急増した。まだ空き家予備軍の段階や、未相続の物件も多かったため、成約や登録件数は昨年よりも少ないが、物件の掘り起こしが能動的に起こっている状況に乗じて、物件掲載件数を維持していく。					

【重点取組項目】まちづくり人材の取組促進(WS)

【対象者】 まちづくりに取り組む市民・団体

【内 容】 市民・団体が自ら行うまちづくり活動に対して地域提案型活動支援補助金による支援を行うとともに、その活動内容をPRすることにより、地域の活力創出及びまちづくりの実践に関する機運醸成を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 補助件数	8件	8件	8件	8件	8件
【想定人口効果】	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]
実績及び実績見込み	5件	6件	8件		
《成果と見直し》					
市民自らによる仕事の創出、子育て、空き家活用などの地域課題を解決する取組について、9件の応募があり、そのうち8件を採択した。実践者自身が発信する親しみやすく魅力あるコンテンツは、これまで関心の無かった市民に対しても、まちづくりや地域の活性化の魅力について共感をもたらしめている。今後は、広報・HPのみならず、SNS等を活用し、新規提案の促進や地域活動の気運を高めていく。					

【重点取組項目】まちづくり人材のつながりづくり(WS)

【対象者】 まちづくりに取り組む市民・団体

【内 容】 まちづくりの実践に関する機運醸成及びまちづくり人材の横のつながりづくりを図るため、まちづくりの実践者がゲストスピーカーとなり、自らの取組を発表する場を設けます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 参加者数	40人	45人	50人	55人	60人
【想定人口効果】	[直接分+0.002人] [経済分+0.000人]	[直接分+0.002人] [経済分+0.000人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]
実績及び実績見込み	0人	70人	60件		
《成果と見直し》					
多様な担い手が、「まちづくり」を共通の基盤として、横断的なつながりの形成に寄与するため、毎年1回実践者報告会を実施する。組織にこだわらない柔軟で多様な関係者の中で、それぞれの主体性や専門性を生かし、楽しみながら活動する様子は、「自分もやってみたい」という意欲が湧いて、活動に参加するきっかけになり、新しい人材の発掘や、人のつながりが生まれることで、関係人口(上記参加者数)の増加が見込まれる。					

【重点取組項目】移住者の定着サポート

【対象者】 移住者及び移住者との交流を望む市民

【内 容】 移住者交流会の開催やフудの行事等を通じた移住者と市民の交流により、人のつながりによる暮らしの豊かさづくりや本市への定着促進を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 交流者数	交流会30人、 フウド延べ 2,500人	交流会30人、 フウド延べ 2,500人	交流会30人、 フウド延べ 2,500人	交流会30人、 フウド延べ 2,500人	交流会30人、 フウド延べ 2,500人
【想定人口効果】	[直接分+1.01人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.01人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.01人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.01人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.01人] [経済分+0.19人]
実績及び実績見込み	38人 1,635人	67人 2,606人	64人 2,412人		
《成果と見直し》					
今年度は、例年どおり移住者交流会を6月に1回開催した他、新規の取り組みとして、「江田島暮らしイメージツアー」を開催した。ツアーでは、普段の移住相談よりも深い交流ができ、実際の移住にも繋がったが、すでに移住されている方同士の交流の場も重要であることから、ツアー及び移住者交流会の実施方法については、ブラッシュアップしながら実施していく。					

【重点取組項目】定住促進補助金の運営

【対象者】 移住者

【内 容】 移住後の住居の確保を支援するため、居住を目的として住家を新築し、又は購入した人に対する補助及び若年層の移住者に対する家賃補助を行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 補助件数	15件	15件	15件	15件	15件
【想定人口効果】	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]
実績及び実績見込み	22件	29件	22件		
《成果と見直し》					
今年度は、定住促進補助金(新築・購入)8件、子育て世帯家賃補助2件、空き家購入補助(移住者のみ)12件となり、KPIを達成することができた。今後も制度の周知を進めることで、補助件数の増加を目指す。					

【重点取組項目】次世代型公共交通システムの研究・実施

【対象者】 観光客を含む公共交通利用者

【内 容】 Maasや自動運転、AI配車システムなど、近い将来実用化されることが見込まれる次世代型公共交通システムの動向を研究し、市内への展開が可能な案件が生じた際は公共交通事業者と調整のうえ導入します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 次世代型公共交通の 利用者数の割合	—	—	—	—	—
実績及び実績見込み					
《成果と見直し》					
令和6年1月に国の補助金を活用して、富士通japan(株)等の協力のもと、自動運転Lv2での自動運転実証運行を行い、104人の方に試乗してもらった。この結果を参考にして、引き続き、自動運転の実現に向けた実験・検討を行っていく。					

基本目標Ⅲ 子どもが生まれ、育つ環境をつくる。

プロジェクト1 子どもが郷土で育まれる。

【重点取組項目】地域と連携した保育の実施(WS)

【対象者】 園児

【内 容】 市内保育施設において、地域の食や歴史、遊びなどに長けた地元の講師を招き、様々な体験型の保育企画を実施し、子どもが島の歴史や風土に親しむ機会を創出します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 保育企画実施回数	25回	27回	31回	36回	36回
【想定人口効果】	[直接分+1.00人] [経済分+0.19人]	[直接分+1.08人] [経済分+0.21人]	[直接分+1.24人] [経済分+0.24人]	[直接分+1.44人] [経済分+0.28人]	[直接分+1.44人] [経済分+0.28人]
実績及び実績見込み	21回	45回	55回		
《成果と見直し》					
各認定こども園において、地元の方を講師に招いて特色ある保育事業を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、餅つきや江田島焼きの体験等、地元との交流、地域の文化を体験する企画を積極的に実施した。今後も島の魅力を伝えられる保育企画を実施し、地域に根差した事業を展開していく。					

【重点取組項目】島の自然などを活用した特色ある保育の展開(WS)

【対象者】 園児

【内 容】 英語教育のほか、認定こども園で展開されている特色ある保育・幼児教育を全園で展開することにより、島だからできる保育機会を提供します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 保育企画実施回数	20回	22回	26回	31回	31回
実績及び実績見込み	20回	22回	23回		
《成果と見直し》					
今後も、各園の取組内容を見直しながら継続的に実施することで、特色ある保育・幼児教育の充実を図る。					

【重点取組項目】祖父・祖母世帯の子育て参画の推進(WS)

【対象者】 幼児がいる家庭の祖父母

【内 容】

幼児がいる家庭の祖父母に対し、現在の育児事情を知ってもらうことで、孫育てのサポートを行います。また、地域での子育て支援につなげていくことで、子育てしやすいまちづくりを構築します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 孫育て検定の参加人数	—	30人	35人	35人	35人
実績及び実績見込み	41人	22人	35人		
《成果と見直し》					
令和3年度から引き続き、ファミリーサポートセンター事業の交流会で生協ひろしまと連携し、寸劇による孫育てセミナーを開催(3/15)する。寸劇、グループワークの流れで情報共有し、子育て参画の推進を図る。昨年は、ファミリーサポートセンターの会員や主任児童委員などの特定の者の参加となったことから、開催日程を見直すとともに、子育てに関心のある人に幅広く参加を促し、地域での子育て支援の担い手となるよう、意識を醸成していく。					

プロジェクト2 郷土でしっかりと学ぶ。

【重点取組項目】総合的な学習の時間等における地域と連携した教育の実施(WS)

【対象者】 児童生徒

【内 容】

市内小中学校において、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、児童生徒がふるさとのよさを実感できるような教育活動を推進します。また、本市の特産品であるオリーブ、牡蠣、柑橘類等の地域資源を活用した教育活動を推進します。さらに、市教委主催の初任者研修等において、教員が地域のよさに触れる機会を設定し、地域への理解を深めます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 地域のゲストティーチャー招聘回数	市内小中学校 合計年間 60回以上	市内小中学校 合計年間 60回以上	市内小中学校 合計年間 60回以上	市内小中学校 合計年間 60回以上	市内小中学校 合計年間 60回以上
【想定人口効果】	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]
実績及び実績見込み	143回	128回	234回		
《成果と見直し》					
各学校において社会に開かれた教育課程の編成に努め、地域と連携した教育を実施したことにより、目標を達成することができた。					

【重点取組項目】学校と保護者等のコミュニケーションを図る場づくり(WS)

【対象者】 教員、児童生徒の保護者

【内 容】

各校において、PTA活動、懇談会、保護者アンケート等を実施し、学校と保護者等が相互に理解できるような場を定期的に設定しています。今後も、教員と保護者の信頼関係が構築できるよう、各校の実態に合わせた取組を継続します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 懇談会の実施回数	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上
実績及び実績見込み	各校年間 平均2.2回	各校年間 平均3.7回	各校年間平均3.8回		
《成果と見直し》					
平均回数は目標を達成しているが、市内10校中1校は目標未達成となった。今後も開催方法やその内容を工夫するなどして、教員と保護者の信頼関係の構築に努める。					

【重点取組項目】児童生徒の自己肯定感を高める体験活動の充実(WS)

【対象者】 児童生徒

【内 容】

地域清掃活動(アダプト活動)や「山・海・島」体験活動(小学校)、職場体験(中学校)など、児童生徒の発達段階に合わせて様々な体験活動を実施し、自己肯定感を高める体験活動を実施します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 体験活動の実施回数	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上	各校年間 3回以上
【想定人口効果】	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]
実績及び実績見込み	各校年間 平均5.4回	各校年間 平均6.9回	各校年間平均5.5回		
《成果と見直し》 平均回数は目標を達成しているが、市内10校中2校は目標未達成に終わった。他の活動とのバランスを含め、教育課程の見直しを行い、自己肯定感を高める体験活動(さとうみ教育等)を推進する。					

【重点取組項目】個別最適な学びの推進による教育の充実

【対象者】 児童生徒

【内 容】

各校において、児童生徒の実態に応じた個別最適な学びを推進していきます。特に、三高小学校においては、個別最適な学びの実現を目指すモデル校として、「イェナプラン教育」を参考とした研究を推進する上で、「地域コーディネーター」を配置します。今後は、その研究成果を踏まえ、各校の実態に合わせた個別最適な学びを充実させます。
また、タブレット等を活用したICT教育を推進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 タブレットを使用した授業の実施回数	各校週1回以上	各校週1回以上	各校週1回以上	各校週1回以上	各校週1回以上
【想定人口効果】	[直接分+2.63人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.63人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.63人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.63人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.63人] [経済分+0.50人]
実績及び実績見込み	各校週2回以上	各校週2回以上	各校週2回以上		
《成果と見直し》 学校によっては、週5日以上使用する学校もあり、ICT教育の推進が図られている。今後も、更なる環境整備やICT教育に関する研修の充実を図り、ICT機器が日常的で効果的に活用できることを目指す。					

【重点取組項目】里海教育の推進

【対象者】 児童生徒

【内 容】

「里海」を教育資源と捉えた、本市ならではの「特色ある教育」として推進します。理科・生活科における地域素材の教材化、総合的な学習の時間における各校・各学年に応じた地域学習や「課題発見・解決学習」の推進など、自然体験活動や探究活動の充実を図ることで、ふるさとの自然に親しみ、知的好奇心や探究心を育てながら、生命を尊び、自然を大切にし、郷土を愛する豊かな心を育成します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 里海を教育資源とした体験活動・探求活動の実施回数	市内年間 30回以上	市内年間 30回以上	市内年間 30回以上	市内年間 30回以上	市内年間 30回以上
【想定人口効果】	[直接分+0.23人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.23人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.23人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.23人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.23人] [経済分+0.04人]
実績及び実績見込み	33回	33回	44回		
《成果と見直し》 「さとうみ学習コーディネーター」が学校と地域のつなぎ役を果たし、地域素材や地域人材を活用して、里海教育を推進することができた。今後は、コーディネーターの働きかけ、「触れる」「知る」「探る」「表現する」の学習段階に応じた活動により、更なる充実を図る。					

【重点取組項目】ゲストティーチャー等を活用したキャリア教育の推進(WS)

【対象者】 児童生徒

【内 容】 キャリア教育を推進する中で、必要に応じて出前授業等を実施し、社会で活躍されている方々に直接触れる機会を設けています。今後も、各校の実態に応じて企業等のゲストティーチャーを招聘するなど、児童生徒のキャリア発達を推進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 企業等のゲストティーチャーの招聘回数	市内小中学校 合計年間 10回以上	市内小中学校 合計年間 10回以上	市内小中学校 合計年間 10回以上	市内小中学校 合計年間 10回以上	市内小中学校 合計年間 10回以上
【想定人口効果】	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]
実績及び実績見込み	21回	63回	47回		

《成果と見直し》

キャリア教育の指定校を中心に、教育活動にキャリア教育の視点を取り入れることで目標達成につながった。今後は、指定校の取組を市内全体に普及させるなどして、更なる充実を図る。

プロジェクト3 子育てしやすい環境をつくる。

【重点取組項目】子育て情報の一元的な発信(WS)

【対象者】 子育て家庭

【内 容】 ホームページや情報誌の策定、メール配信の活用により、必要な時に必要な情報が得られるよう子育て家庭に向けての情報発信を行います。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 アプリ登録者数	500人	550人	560人	570人	580人
【想定人口効果】	[直接分+0.63人] [経済分+0.12人]	[直接分+0.69人] [経済分+0.12]	[直接分+0.70人] [経済分+0.13人]	[直接分+0.71人] [経済分+0.14人]	[直接分+0.73人] [経済分+0.14人]
実績及び実績見込み	716人	844人	918人		

《成果と見直し》

子育て情報の発信ツールとして、「母子モ」のアプリを活用した。子育て世代に向けて、江田島市の情報や子育て情報を提供するとともに、ひろばや子育て支援課等への来所を促す。比較的登録の少ない父親や祖父母等も登録してもらい、情報共有することで、地域全体での子育てを目指す。

【重点取組項目】保護者による子育て仲間(グループ)づくりの促進(WS)

【対象者】 子育て家庭

【内 容】 子育て世代包括支援センター内で実施する「にこひろば」を周知するとともに、地域に出向いて出前講座を行うなど、参加しやすい環境を整備します。イベントへの参加や「にこひろば」の利用を通して、子育て仲間づくりを促進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 イベント実施回数	68回	70回	72回	72回	72回
【想定人口効果】	[直接分+0.34人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.35人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.36人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.36人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.36人] [経済分+0.07人]
実績及び実績見込み	26回	40回	42回		

《成果と見直し》

にこひろばでのイベントや出前講座を実施し、交流の場を提供した。(今年度実績:出前講座3回)今年度は、新しいイベントを実施したが、目標を達成することができなかった。引き続き、計画的なイベントの開催と内容の充実を図るとともに、来所できない親子に対しては出前講座を活用し、地域に出向いてひろばを実施することで、子育ての仲間づくりの場の提供に努めていく。

【重点取組項目】妊産婦へのケアの実施(WS)

[対象者] 妊婦、産婦

[内 容] 産前・産後ママのサロンやママ♡パパスクールを実施することにより、妊娠期から子育て家庭の交流を促進し、妊婦や産婦の支援を行います。
また、妊産婦健康診査等の費用及び妊婦健診受診時の交通費を助成し、子育て家庭の経済的負担を軽減します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】					
サロン及びスクールの事業実施回数	15回	15回	15回	15回	15回
[想定人口効果]	[直接分+0.90人] [経済分+0.17人]	[直接分+0.90人] [経済分+0.17人]	[直接分+0.90人] [経済分+0.17人]	[直接分+0.90人] [経済分+0.17人]	[直接分+0.90人] [経済分+0.17人]
実績及び実績見込み	9回	11回	10回		
《成果と見直し》					
要支援家庭へ個別にママ・パパスクールを開催することで出産の準備や家庭状況を把握することができた。また、産前に保健師が関わることで産後の訪問もスムーズに受け入れてもらうことができた。 今年度は、個別開催を計画していたが、予約者が少なかつたため、目標を達成することができなかった。 今後も、内容の充実を図り教室を開催することで、妊産婦の支援の充実に努める。また、要支援家庭やスクール開催日に参加できない家庭に対し、希望に応じ、可能な範囲で個別開催を実施する。					

【重点取組項目】ファミリーサポートセンターの運営(WS)

[対象者] 子どもを預けたい家庭、子どもを預かってよい家庭

[内 容] ちょっとしたときに子どもを預けたいなという会員と預かってよいという会員のマッチングを図り、子育ての負担感を軽減します。
また、会員同士の交流会を実施することで、子育て世代の仲間づくりを推進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】					
会員数	24人	24人	24人	24人	24人
[想定人口効果]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]
実績及び実績見込み	35人	48人	47人		
《成果と見直し》					
有償ボランティアによる子育て支援をすることで、地域で子育てをする意識の醸成を図る。各種イベントや会議の場などで積極的に制度の周知を図り、会員登録の増加に努め、緊急時の預かりを実施するなど多様なニーズに対応した。受け皿となるサポート会員を継続的に確保することに課題があり、引き続き、人材の掘り起こしに向けた周知を行う。					

【重点取組項目】子どもが自由にのびのび遊びたい場所(公園・広場)の確保(WS)

[対象者] 子ども、保護者

[内 容] 公園のイベント開催数(貸出数)を増加することにより、公園に集う機会を増やします。特に、子ども向けのイベントの重点的な利用を促進することで、地域の公園を子どもと保護者にとって身近で親しみやすい魅力的な場とします。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】					
貸出数	2回	3回	3回	4回	5回
[想定人口効果]	[直接分+0.27人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.27人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.27人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.27人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.27人] [経済分+0.05人]
実績及び実績見込み	0回	2回	5回		
《成果と見直し》					
新型コロナウイルス感染症の終息により、公園でのイベント開催が徐々に復活してきている。今後も公園の情報を視覚的に認知して貰えるよう、HPの掲載方法を工夫しながら情報発信し、こども向けイベントのみならず、公園の利用促進に努めたい。					

【重点取組項目】通学定期補助制度の運営

【対象者】 公共交通を利用して市内・市外へ通学する児童生徒

【内容】 市内を発着点とする通学定期券の購入補助を行い、子育て世代の費用負担を軽減することにより、転出抑制を図り、定住促進につなげます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 制度利用者数	530人	525人	520人	515人	510人
【想定人口効果】	[直接分+2.63人] [経済分+0.51人]	[直接分+2.63人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.60人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.58人] [経済分+0.50人]	[直接分+2.55人] [経済分+0.49人]
実績及び実績見込み	510人	499人	518人		
《成果と見直し》					
事業は計画どおり進捗している。新型コロナウイルス感染症による移動制限が緩和されたため、利用者数は徐々に回復してきており、また、R4年12月のバスダイヤ改正により船との接続が向上したことにより、学生のバス定期券利用も増加傾向にある。					

基本目標Ⅳ 元気に暮らし続けられるまちをつくる。

プロジェクト1 元気なからだを保つ。

【重点取組項目】健診受診勧奨サポーターの養成(WS)

【対象者】 市民

【内容】 市民への受診勧奨(声掛けや集団健診の申込みの取りまとめ等)を行う健診サポーターを養成し、地域で集団健診の受診を促す機運を醸成することにより、健診受診率を向上し、疾病の早期発見や重症化を抑制します。初めは、食生活改善推進員、母子保健推進員等の中から養成し、その後は、各地域に広がっていきます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 健診サポーター養成人数	-	20人	25人	30人	35人
【想定人口効果】		[直接分+2.00人] [経済分+0.38人]	[直接分+2.50人] [経済分+0.48人]	[直接分+3.00人] [経済分+0.58人]	[直接分+3.50人] [経済分+0.67人]
実績及び実績見込み	-	68人	68人		
《成果と見直し》					
令和5年度も、食生活改善推進員を対象に健診受診勧奨サポーター養成を実施した。地区活動で健診の受診勧奨や申込みの取りまとめなど、市民の健康を地域ぐるみで推進した。令和6年度も活動を継承しつつ、新たに母子保健推進員を対象に、乳幼児健診や訪問時に女性のがん健診を対象とした健診受診勧奨サポーターを養成する。					

【重点取組項目】AIを活用した健診受診勧奨(WS)

【対象者】 市民(国保特定健診:40歳～74歳)

【内容】 AIやソーシャルマーケティングの手法に基づく解析により、受診勧奨を行う対象者を選定し、必要な人に効率的に受診勧奨が届く仕組みを推進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 国保特定健診受診率	52.0%	56.0%	60.0%	62.0%	64.0%
【想定人口効果】	[直接分+5.36人] [経済分+1.03人]	[直接分+5.77人] [経済分+1.11人]	[直接分+6.18人] [経済分+1.19人]	[直接分+6.39人] [経済分+1.23人]	[直接分+6.59人] [経済分+1.27人]
実績及び実績見込み	32.4%	32.3%	30%(見込み)		
《成果と見直し》					
5月・9月・1月の3回に渡り受診勧奨を行ったが、受診率が伸びていない。AIやソーシャルマーケティングによる分析では、「何らかの疾病があり通院しているから健診は必要がない」と考えている人への勧奨が効果的であると見込んでおり、令和6年度は、レセプトデータを活用し、「現在通院中の病院で健診が受けられる」旨の個別通知と、かかりつけ医からのアプローチによって、より多くの人が健康診査を受診するよう仕組み作りを構築する。					

【重点取組項目】介護予防に関する意識啓発コンテンツの作成(WS)

【対象者】 市民

【内 容】 現在、市内で浸透している「いきいき百歳体操」を、高齢者だけでなく幅広い年代に関心を持ってもらうため、オリジナルの出演者による、江田島市独自の百歳体操DVDを作成し、元気なうちからの健康づくりや介護予防に関する意識啓発を行うとともに、取組の参加を促進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 配付枚数	—	—	100枚	100枚	100枚
【想定人口効果】			[直接分+4.00人] [経済分+0.77人]	[直接分+4.00人] [経済分+0.77人]	[直接分+4.00人] [経済分+0.77人]
実績及び実績見込み	—	—	1、250枚		
《成果と見直し》					
令和4年度にオリジナル介護予防体操「えたじまん体操」を作成した。令和5年度は、広島大学の協力を得ながら体操の普及に取り組んだ。出前講座、百歳体操つどい代表者等交流・研修会、介護予防教室、市公式YouTube等で周知を行った。今後も介護予防及び通いの場の活動の充実化等を図っていく。					

【重点取組項目】がん検診・生活習慣病健診等の推進

【対象者】 市民(胃・肺・大腸・乳:40歳～69歳・子宮頸:20歳～69歳)

【内 容】 国保特定健診、がん検診、生活習慣病健診の受診しやすい体制を整備し、疾病の早期発見・早期治療により、重症化を抑制します。
 ※ 集団健診(江田島市内各地域の体育館、交流プラザ等で実施)
 ※ 個別健診(広島市・呉市の医療機関で受診可能)
 ※ 集団健診を受診した際に、次年度の健診の予約ができる体制を整備します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 子宮頸がん検診受診率・乳がん検診受診率	子宮頸16.0% 乳10.5%	子宮頸16.3% 乳10.8%	子宮頸16.5% 乳11.2%	子宮頸16.7% 乳12.5%	子宮頸17.0% 乳18.2%
【想定人口効果】	[直接分+0.12人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.13人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.13人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.14人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.18人] [経済分+0.04人]
実績及び実績見込み	子宮11.5%(確定) 乳7.8%(確定)	子宮12.4%(暫定) 乳9.3%(暫定)	10%(見込) 6%(見込)		
《成果と見直し》					
女性のためのがん検診について、広島市11機関、呉市9機関、江田島市3機関と契約を締結し、受診しやすい体制を整備した。また、園児の母親を対象としたプレストセルフチェッカー(自己検診用手袋)を用いた受診勧奨、受診が途切れている人を対象とした受診勧奨をそれぞれ実施している。令和6年度は、受診者の傾向や、効果的な受診勧奨の方法(対象・手法)を検討する。					

【重点取組項目】救急医療・夜間休日診療体制の確保

【対象者】 市民

【内 容】 医師会や他市町と連携し、救急相談窓口の運営や夜間休日等の診療体制を確保するため、呉圏域として呉市内の4つの医療機関で対応しており、市内で安心して暮らすことのできる医療体制を維持します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 連携する医療機関数	4機関	4機関	4機関	4機関	4機関
実績及び実績見込み	4機関	4機関	4機関		
《成果と見直し》					
令和5年度も呉市内4医療機関及び医師会等の協力のもと、救急医療・夜間休日診療体制を確保できた。引き続き、現体制を継続していく。					

【重点取組項目】介護予防に関する取組

〔対象者〕 65歳以上の市民

〔内 容〕

フレイル(加齢とともに、心身の機能が低下し、要介護状態に陥る危険性が高まっている状態)予防を目的として、足腰の筋力や体力に衰えを感じている人や自宅に閉じこもりがちな人を対象に、介護予防教室を開催します。
 今後も、介護予防・健康づくりに必要な3本柱「運動・栄養・口腔」に重点を置いた教室内容を検討し、参加者に介護予防の必要性を普及・啓発します。また、地域に帰った後も、みんなで支え合い、一緒に介護予防ができる場として住民主体の通いの場を提供し、地域における介護予防活動の取組を推進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 年間参加者数	180人	180人	180人	180人	180人
〔想定人口効果〕	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]
実績及び実績見込み	62人	83人	74人		
《成果と見直し》 令和3年度から年間2クール(1クール16回)、午前・午後開催、各教室の定員を20名に変更した。 令和5年度は、新規参加者獲得のため、会場変更したが、リピーターの参加者が多く、引き続き、新規の参加者を獲得できる取り組みが必要である。今後も参加者が安全に安心して教室に参加できる対策を講じながら介護予防活動を推進する。					

プロジェクト2 出かけていく場をつくる。

【重点取組項目】高齢者が人と交わることができる場の確保(サロンや子どもとの昔遊びなど)(WS)

〔対象者〕 市民

〔内 容〕

認知症の人やその家族、子どもや若い人など、誰でも気軽に訪れることができる認知症カフェを推進します。認知症について学ぶだけでなく、集まった人と気軽に話をしたり、講話を聴いたり、そこに行けば誰かに会え、地域とつながりが持て、人と関わり、困り事を相互に助け合うことができる地域の構築を図ります。
 また、認知症サポーターを養成し、認知症の人もそうでない人も、ともに暮らし、住み慣れた自宅、地域で生活し続けていくために、多くの人々が認知症を知り、普段の暮らしの中で認知症の人を見守り、できる範囲で手を差し伸べられる社会の仕組みづくりを推進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 認知症カフェの箇所数・年間サポーター養成数	1箇所 60人	2箇所 60人	3箇所 60人	4箇所 60人	5箇所 60人
〔想定人口効果〕	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.08人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.19人] [経済分+0.04人]
実績及び実績見込み	2箇所 53人	2箇所 103人	4箇所 35人		
《成果と見直し》 令和5年度においては、認知症カフェ箇所数が、沖美町(三高会館・沖美市民センター)開催の「おきがるカフェ」、能美町(鹿川交流プラザ)の「虹カフェ」の2箇所が新たに立ち上がり、合計4箇所となった。 サポーター養成数は延べ191人となった。引き続き、認知症の正しい理解の普及・啓発に務める。					

【重点取組項目】男性限定版の集まる機会の確保(WS)

【対象者】 在宅ぎみの男性高齢者

【内容】 料理教室や趣味の講座など、在宅ぎみになりがちな男性高齢者が地域と交わる機会を増やすことにより、元気を保ち、要介護状態になることを抑制します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 集まる場の箇所数	—	1箇所	2箇所	3箇所	4箇所
【想定人口効果】		[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.08人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.11人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]
実績及び実績見込み	—	3箇所	5箇所		
《成果と見直し》					
男性高齢者が地域と交わる機会を増やすため、中町・鹿川・高田・山田・飛渡瀬の5箇所で男性料理教室を開催し、85人の参加者があった。令和6年度も引き続き実施する。					

【重点取組項目】地域の小さな単位でのフリーマーケット開催(WS)

【対象者】 地域住民

【内容】 地域住民が主体となり家庭のものを持ち寄るフリーマーケットの開催を促進し、地域住民が出かけていく場づくり・交流の機会づくりを図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 開催場所数	—	1箇所	2箇所	3箇所	4箇所
【想定人口効果】		[直接分+0.13人] [経済分+0.02人]	[直接分+0.25人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.50人] [経済分+0.10人]
実績及び実績見込み	—	0箇所	1箇所		
《成果と見直し》					
地域住民が主体的に実施している食生活改善行事に併せて、地元野菜のマーケットを開催(2月)し、102名の参加があった。					

【重点取組項目】図書館における企画の充実(WS)

【対象者】 地域住民

【内容】 図書館を利用する人々が、健康で長生きし、よりよい老後を送るために考え、学ぶため、図書館において市の出前講座を活用・実施し、図書館と福祉保健部が連携することで、健康寿命を延ばすための情報拠点として集える場所として魅力向上を図ります。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 開催回数	1.5回	1.5回	1.5回	1.5回	1.5回
【想定人口効果】	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]	[直接分+0.04人] [経済分+0.01人]
実績及び実績見込み	1.0回	1.0回	1.0回		
《成果と見直し》					
令和5年度は、3月に高齢者を対象とした出前講座を開催予定で、昨年度に引き続き、講座に関連した書籍を展示をするなど、取組の工夫に努める。来年度以降は、市内の各図書館(室)で実施し、開催回数を増やしていきたい。					

【重点取組項目】生涯学習活動の推進

〔対象者〕 地域住民

〔内 容〕 地域住民の学ぶ意欲を高めるため、ニーズに沿った講座を実施し、生涯を通して学習できる場・環境を提供します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 講座回数(市民センター)・講座回数(交流プラザ及び公民館)	センター8回 プラザ等1回	センター9回 プラザ等1回	センター10回 プラザ等2回	センター11回 プラザ等3回	センター12回 プラザ等4回
〔想定人口効果〕	[直接分+0.34人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]	[直接分+0.45人] [経済分+0.09人]	[直接分+0.53人] [経済分+0.10人]	[直接分+0.60人] [経済分+0.12人]
実績及び実績見込み	7回 2回	8回 3回	11件 3件		

《成果と見直し》

令和5年度は、目標とする講座回数を達成し、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与した。今後も、施設の統廃合が進んでいくが、引き続き、関係施設と調整を図るとともに、各拠点に配属された事業運営員を中心となって、市民のニーズを吸い上げ、ニーズに沿った講座を開催する。

【重点取組項目】高齢者の活躍の場の確保(シルバー人材センター)

〔対象者〕 高齢者

〔内 容〕 シルバー人材センターの活動を支援することにより、高齢者がその知識・技能を活かせるような幅広い活動内容を洗い出し、PRすることで、男性会員だけでなく、女性会員も社会で活躍できる場を創出します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 女性会員の人数	50人	60人	70人	80人	90人
〔想定人口効果〕	[直接分+0.50人] [経済分+0.10人]	[直接分+0.60人] [経済分+0.12人]	[直接分+0.70人] [経済分+0.13人]	[直接分+0.80人] [経済分+0.15人]	[直接分+0.90人] [経済分+0.17人]
実績及び実績見込み	48人	45人	48件		

《成果と見直し》

シルバー会員の高齢化により、減少傾向にあるが、会員拡大推進員による会員拡大に向けた取組により、女性会員数は、令和5年12月末時点で48人と令和4年度末よりも3人多くなった。市としては会員拡大・就業開拓部会及び女性部会等へ随時参加し、取組への助言等の支援を行ったり、随時協議をしながら補助金を支出するなど財政面での支援も行っている。
シルバー人材センターでは、新たな会員の更なる拡大に向けた取組を推進しているため、市においては、引き続き、各部会及び女性部会へ積極的に出席し、女性が活動できる就労メニュー等の情報提供や助言等による支援を継続する。また、市のイベントや行事でポスターの掲示や会員募集チラシを配布するなど、広く会員拡大に向けた支援を行う。

プロジェクト3 みんなで支える体制をつくる。

【重点取組項目】通いの場運営サポーターの養成(WS)

【対象者】 通いの場のメンバー及び一般市民

【内 容】 通いの場を継続し、通いの場の後継者を養成するため、通いの場メンバーだけでなく、一般市民へも広く周知します。また、中高年代からも介護予防に関心を持ち、介護予防活動を推進していくよう、体操の指導や計測を実施し、参加への呼びかけを行う人材(いきいきサポーター)を養成し、自分たちの居場所として主体的に通いの場を考え、取り組む組織づくりを促進します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】					
年間サポーター養成数	—	10人	15人	20人	25人
【想定人口効果】		[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.23人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]	[直接分+0.38人] [経済分+0.07人]
実績及び実績見込み	—	19人	39人		
《成果と見直し》					
令和5年度は、「通いの場」の後継者育成に限定せずに、地域活動の担い手として活躍する人材育成、ボランティア意識醸成を図るため、プラチナ大学(県主催の事業)を行った。自分らしく地域でやりたいことをかなえる方法や仲間づくりについて、全4回の講座を行った。地域の担い手を増やしていくことで通いの場の後継者養成につなげていきたい。					

【重点取組項目】高齢者に対するケア・見守り活動

【対象者】 65歳以上の高齢者

【内 容】 独居高齢者、認知症や障害のある高齢者が、住み慣れた地域で安心・安全に生活することができるよう、見守りネットワーク登録者数を増やし、急病や災害時の緊急体制を整備します。また、社会福祉協議会等と連携し、見守り体制の強化を図り、日常生活における「孤立」、「孤独」といった不安の解決に努め、本人のみならず、家族や地域住民も安心して生活できる地域づくりを目指します。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】					
見守りネットワーク登録者数	15人	20人	25人	30人	35人
【想定人口効果】		[直接分+0.15人] [経済分+0.03人]	[直接分+0.20人] [経済分+0.04人]	[直接分+0.25人] [経済分+0.05人]	[直接分+0.30人] [経済分+0.06人]
実績及び実績見込み	12人	10人	10人		
《成果と見直し》					
見守りネットワークは、地域に見守り支援員を増やし、見守ることで孤立化させない取組であるが、地域の担い手不足は深刻化しており、登録者数を増やすことは出来なかった。社会福祉協議会が行っている「見守りネットワーク」の活動内容を社協だよりやおかせ通信(社協発行)で紹介するとともに、生活支援コーディネーターと連携を図ることで、登録者数の増加を目指す。					

【重点取組項目】住民相互の送迎や乗り合わせによる移動の推進(WS)

【対象者】 交通が不便な地域に住む住民

【内 容】 地域住民等が主体となった送迎に関する方法や手続について、広報誌やHPで周知を図るとともに、実施に向けた相談を受ける窓口を設けます。

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
【KPI】 周知回数	—	広報紙年1回 +HP	広報紙年2回 +HP	広報紙年2回 +HP	広報紙年2回 +HP
[想定人口効果]		[直接分+0.002人] [経済分+0.000人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]	[直接分+0.003人] [経済分+0.001人]
実績及び実績見込み	— —	広報紙0回 HP500件	10,000件 10,983件	10,000件	10,000件

《成果と見直し》

住民相互の送迎や乗り合わせによる移動の推進について、市広報紙やHPで周知を図った。また今後は、福祉部門や社会福祉協議会とともに、移動手段について考える地域住民を含めたサロンの開催を検討するとともに、地域に導入の意向があれば公共交通担当が窓口となり、随時対応していく。